

# コロナにめげず 今年もとびます ～2020年 38回目の意見広告～



グローバル化の波は小さなウイルスに阻まれた。  
少なくとも人の動きは遮断されてしまいました。  
グローバル化は地球規模で政治、経済、人的交流を行おうという動きです。地球規模で問題を解決することは決して悪い事ではありません。

しかし、グローバル化が進めば進むほど、小さな、弱い立場の人々に負担を求める構造が明らかになっています。

あらゆる分野で統合化、画一化が進み、多国籍企業の進出、自国産業の停滞、産業の空洞化による経済体質の弱体、自国民の雇用喪失、格差の広がり、などなどナショナリズムの拡大に繋がる動きが加速しています。

いま世界中に広がる右傾化の動き、自分の国さえよければいいという自国第一主義は、グローバル化が原因なのだやっとな得できたところ

です。  
新型コロナは世界の人々を恐怖に陥れています。亡くなられた方々はほんとうにお気の毒だと思います。でもこの小さなウイルスは私たちに大切なことを教えてくれています。

戦闘機もミサイルも小さなウイルスを倒すことができない事実を。

いざという時、武器は何の役にも立たない事実を。

難局を乗り切るにはみんなで一緒に協力しなければならぬことを。

大きな国なんか必要ないことを。

大切なのは、きれいな空気、きれいな水、そして温かい人々。

憲法九条のつくる社会です！（宮崎優子）

No.222号  
2020年4月25日  
発行人 宮崎 優子  
事務局 日高 礼子  
☎090-1166-4218  
FAX097-544-8892

## お知らせ

前号でお願いした「改憲発議に反対する全国緊急署名」は4月21日までに2団体30人の方にご協力いただき、3,642筆も集まりました。ありがとうございます。これまでの分は5月3日までに東京に送ります。署名はこれからも（改憲発議の可能性のある限り）続きます。

## 意見広告までの日程

- 6月13日(日) 13:30～ デザイン会議・集約作業
- 6月28日(日) 13:30～ デザイン会議・集約作業
- 7月11日(土) 13:30～ デザイン会議・集約作業
- 7月19日(日) 13:30～ デザイン会議・集約作業
- 7月25日(土) 13:30～ デザイン会議・集約作業
- 7月31日(金) 意見広告募集〆切
- 8月～ 随時 校正作業
- 8月15日(木) 意見広告掲載

※場所はいずれも  
市民活動・消費生活センターライフパル  
(097-537-3770)

大分市府内町3-7  
(府内五番街ローソン近くの交差点角)

## お詫び



会報前号(221号)の1面に2カ所訂正があります。

●見出し「日米共同訓練」は

「米軍の実弾砲撃訓練」に訂正

●県への要請文の下段 要望事項のところ

「1. 4回日の日出生台での米軍演習の中止と……」は

「1. 14回目の日出生台での米軍演習の中止と……」に訂正します。

## 異例すくめの第14回、日出生台の米軍訓練 (2/12 ~2/21) 住民配慮より自軍の訓練最優先の姿勢をむき出しに

「我々も信じられないような事態が起きてしまった」

「我々も何とか阻止しようと米軍側に働きかけたが、かなわなかった」

これらの発言は、日出生台での米軍演習に反対してきた私たちのものではない。米軍の演習を支援する九州防衛局の基地対策室長が、今回の演習終了後に、日出生台の地元住民に対して開いた説明会において謝罪とともに発した言葉だ。

14回目となった今回の日出生台での米軍演習は、2月12日より19日までの8日間という日程が事前に公表され、予定通り始まった。14回ともなれば、同様の訓練が繰り返されてきているように思われるかもしれないが、私たちが監視活動が続ける中で見えてきた現実、同じ訓練などというものは一度としてないということ。同じように見えたとしたら、私たちがその違いに気づかなかった、気づけなかったということだと考えている。

それにしても、今回の訓練が、ここまで誰の目にもはっきりと目に見える形で、ここまで公然と地元の合意や日米の合意まで確信犯的に破られ、大問題になるとは、この訓練が始まる時点では予想だにできなかった。

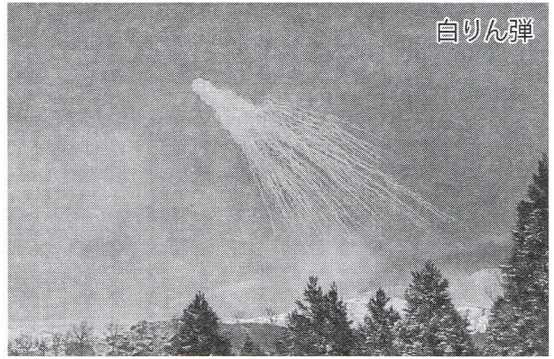
今回の訓練において、「8時までに終了」という覚書を米軍が破った回数は、なんと5回。過去2回破られた時も、同一の訓練内では1回だけだったので、同一訓練内で5回の違反は常軌を逸した事態だ。当然ながら、マスコミも連日、大きく報道、大分県や各種団体、住民から毎回、猛抗議が起きた。防衛局はその都度、大分県に謝罪をせざるを得なくなるのだが、謝罪と再発防止を約束したその夜にまた米軍が違反をするので、回を重ねるごとに役職の上の立場の人が謝罪に出ていかざるを得ない事態となった。しかし、また、そのわずか数時間後、米軍は平然と約束を破るため、防衛局幹部らのメンツは丸つぶれになった。これについて、防衛局は先の地元住民説明会で「米軍側は頑なに自分たちの権利を主張する感じが見受けられた。天気が良ければ、毎日午後8時以後の訓練をしていた可能性がある」とまで述べた。



しかし、米軍の約束違反はこれにとどまらず、トドメは2月20日の予定外の実弾演習だった。最初に書いたように、この演習の訓練日程は、2月19日までとされていた。19日に8日目となる実弾演習を終えた時点で、マスコミは演習日程が全て終了したと報道した。しかし、その翌日、米軍は小火器（小銃、機関銃）の実弾演習を強行した。後で分かったことだが、防衛局は先の地元住民説明会の場で、この時の状況について、「翌日も訓練をすることが分かった時点で止める方向で一先懸命やった。徹夜して調整し、米軍にここまで言ったことがないくらい、強い口調で止めてほしいと要請した」と防衛局ですえも米軍を制止できなかったことを認めている。

この20日に追加された実弾演習により、「本土4カ所の演習場の合計の訓練日数35日」という日米での合意事項まで破ってしまう事態となった。

広瀬大分県知事は、この事態を受けて、3月2日、自ら東京に足を運び、河野防衛大臣に直接、抗議した。終了時間を定めた覚書の違反、訓練日数を定めた日米合意違反について、実効性のある再発防止策を求めた。これに対して、防衛相は「われわれも重く受け止めている」と謝罪。日米合同委員会で米側と協議する考えを示した。このような形で大分県知事が防衛相へ直接抗議をするのは、1999年に沖縄県から訓練を受け入れて以降初めてのことだ。

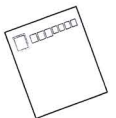


異例づくしともいえる今回の日出生台の米軍演習。「訓練の歯止め」として説明されてきた「米軍使用協定」に付随する覚書が5回に渡って破られ、さらには年間の合計訓練日数を定めた日米合意までが破られるという既成事実が作られた。

思い出されるのは、今回の訓練で、米軍が演習2日目におこなった説明会の場での指揮官の発言だ。「覚書や協定を遵守するか」というところに集中したマスコミからの質問に対して、その全てに指揮官は同じ答えて返した。「訓練の必要性こそが最優先である」と。

今回の訓練、後から振り返って思い出した時に、「あの時が大きなターニングポイントだった」と言うようなことにならないか、危惧している。そんな未来を許すのかどうかは、私たち大分県民の判断と行動にかかっている。

ローカルネット大分・日出生台 浦田 龍次



### お便り紹介

前号にも掲載した元自衛官の方からのお便りです。

会報『赤とんぼ』拝見しました。

「自衛隊が武装を放棄しても、

他国から攻撃されない。なぜなら

丸腰の国を攻撃すれば世界中から

非難されるから」と考える人は多

いと思います。確かに、かつて自

衛隊が「仮想敵国」としていたロ

シア（旧ソ連）、中国、北朝鮮

（今なら韓国も？）が攻撃して来

たらそうなるでしょう。でも、そ

れがアメリカだったら？

アメリカには「在日アメリカ人

を守る」という大義名分がありま

す。そのこともあって、今はアメ

リカとの協力は欠かせない。

私も、自衛隊を国際救助隊に出

来れば一番良いと思います。でも、

まだその時期ではない。

つまり、日本だけが変

わることは出来ないとい

うことで、世界への

働き掛けがさらに必要

ということですよ。

憲法9条は理想の形

です。でも、やはり日

本だけがこれを守れば

良いというものではなく、日本が  
守るためには世界がこれを理解す  
ることが必要なのです。それには、  
まだまだ時間がかかると思います。  
皆さんの活動は根気が必要だと思  
います。頑張ってください。K.T

\* \* \* \* \*

世の中、天災、人災など想定外  
のこと、何が発生、発症するかわ  
かりません。中国の新型肺炎、原  
因が掌握できぬと恐ろしいです。  
自民の首相はなべて最悪ですが、  
安倍政権の無暴、無法振りは真実  
許しがたい。子供でも出来る政治  
をやっている。

日本の若者も怒っていない。哲理  
もなく政権になびく者も。防衛費  
も勝手放題ムダ遣いです。

ペシャワールの

現地の服を着こなして

笑顔で報告の

皆さん忘れず

大分市 T.S



# 「人間の尊厳の不可侵」

津久井やまゆり園事件の加害者に出た死刑判決について、やはりと思いが、一方でそうしてしまっているの

「社会に害をなす者は抹殺してもいい」という加害者の考え方と「死刑に処す」という国家の論理はどう違うのか。戦後の教育の中で人権や平和について私たちは学んできたはずだ。それが血となり肉となつてきているだろうか。いつの間にか経済優先の考え方が得か、初めからそうだったのかもしれないが、大国の采配による交渉などで済んだことになってきた。犯した罪の詳細は国民に知らされることはなかった。

よその国に土足で踏み込み数知れない生命を奪い、人間の尊厳を蹂躪してきたことをずいぶん後になって知った。もうその頃は朝鮮戦争などの特需で日本が「復興」しつつあったからだろうか。知りたいと思わなければわからないことばかりであった。

日本はその後、経済大国になるべく、教育のあり方を変えていった。期待される人間像によって子どもたちを幾層かに分け、選抜教育の効率をよくするために理由で分離する手段の一つが養護学校であった。中曽根政権のもとで行われた「教育改革」である。その頃、昨日まで保育園で一緒だった友だちが同じ小学校に来てはじめて「お母ちゃん、〇〇ちゃんはどこに行つたん？」と問う子供にこたえることができなかったと述懐する親御さん

がいた。

県に五、六校しかない養護学校に行くためには、学校の近くの施設に入所するしかなく、家族とも地域とも分断されてしまう。

六才で分けられてしまうと、義務教育後に地域に戻ることはほとんどできず、入所施設の中で最期を迎える方が今も多くなる。

このことはすべての国民が知っているはずだけれど、疑問を持って語られることはあまりない。なぜなのでしょう。

第二次大戦後、ドイツは猛省して憲法にあたるドイツ基本法第一条に「人間の尊厳の不可侵」を置いた。日本はそうしなかった。

国家が責任を持って実現していくことの第一義が人間の尊厳の不可侵であれば、本人も家族も望まないのに、六歳で近所や家族と切り離されることはなかったらうし、何より人間の生命より金が大事であるかのような風潮が蔓延することもない。その意味で、津久井やまゆり園事件は起こるべくして起こったともいえるのではない。

死刑判決が出たからすべてが終わったこととしてしまつては今回犠牲になられた方々に対して日本の国民の一人として無責任になる。

経済が最優先という今の社会の価値観はどうしたら変えられるのか。なかなか難しいが、現在直面している「新型コロナウイルス問題」の中でも学ぶことがあるのではないかと

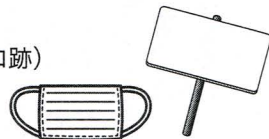
(寄村 仁子)

5月3日憲法集会 (平和憲法を守る会大分 他主催) はコロナ対策のため中止となりました。11月3日の憲法公布日の開催を目指すそうです。

## そこで5月3日は……「5.3 憲法記念日 大分駅前アピール行動」♪ ～どこへ行く 私たちの生存権?!～

5月3日 14時～16時 祝祭の広場 (旧パルコ跡)

歌・プラカードをもってスタンディング  
アベノマスクでホームレス支援



主催> 憲法・教育基本法改悪に反対する市民連絡会おおい  
連絡> 090-4583-8797 (池田)

※名もなきひとむれのチラシ配りは13時～駅前スタンディングに振り変えます。

### シンポジウム

「**おごる権力者に大学を破壊させてはならない**」は中止します。

とき/7月19日(日) 13:30~16:30 (予定)

基調講演/望月衣塑子さん(新聞記者)

演題/「民主主義とは何か~主権者であり続けるために~」

コメンテーター/石原 俊さん(明治学院大学教授)

ところ/ソレイユ7階 カトレア

主催/大分大学のガバナンスを考える市民の会

連絡先/080-1547-1323(気賀沢)

### 編集後記

アベノマスクが不要ならホームレス支援団体に送って、という呼びかけがあります。

〒805-0005 北九州市八幡東区荒生田2の1の32 ホームレス支援全国ネットワーク事務局まで  
(TEL)093-651-7057

争いより支え合いですね。(丸)

## 声に出して読んでみましょう憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権否認」  
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。  
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒880-0855 大分市豊崎2丁目5番53号 自然食品と手づくり品の店ゆう内  
(FAX)097(544)8892 (郵便振込)0154010112160  
(ホームページ) <http://aka-tombo.com/>